

高位平準動物看護概論 動物人間関係学 対面学習確認テスト

問題1: 動物人間関係学の基盤となった研究について、正しいものはどれか。

- ① フリードマンらは、犬を飼っている人だけが心疾患で退院1年後の生存率が高いことを示した。
- ② シーゲルは、ストレスレベルの違いによる高齢者の1年間の通院回数を調査したが、差はみられなかった。
- ③ サーベルの調査により、犬や猫を飼い始めるとどちらの場合も10か月にわたって軽度の健康問題に改善がみられることが示された。
- ④ サーベルの研究が重要なのは、医学関係者の注目を集めたことにある。
- ⑤ アンダーソンらにより、ペット飼育者は男女とも収縮期血圧、血中コレステロール・トリグリセリド値の改善がみられた。

問題2: 人と犬の関係について、正しいのはどれか。

- ① 4,800万年以上前に地球上に生息したミアキスが、森の中で進化したものがオオカミとされている。
- ② 人はオオカミを家畜化して犬を作り出したのは、食料とするためだけであった。
- ③ オオカミの家畜化は中国で行われたことがわかっている。
- ④ 犬は特にさまざまな選択交配が重ねられ、現在30犬種存在する。
- ⑤ 犬は、最も古く家畜化された動物である。

問題3: 人と猫の関係について、正しいのはどれか。

- ① 猫の祖先は中東リビアの砂漠に棲むリビアヤマネコと考えられている。
- ② 猫の最古の飼育例は約9,500年前の古代エジプトの遺跡から見つかった。
- ③ 望ましい特性を得るために選択交配が重ねられ、犬と同じくらいの品種が存在する。
- ④ 猫は犬に続いて古くに家畜化された。
- ⑤ 家畜化により、猫はネズミを捕るようになった。

問題4: 人とウマの関係について、正しいのはどれか。

- ① ウマの祖先は約5,200万年前に北アメリカ大陸で生息していたエクウスと考えられる。
- ② エクウスは前後肢とも4本の指があった。
- ③ 人は、家畜化と同時にウマに乗るようになった。
- ④ ウマの家畜化は約5,500年前のウクライナで行われた。
- ⑤ ウマ属の動物は、シマウマとロバの仲間を合わせて6種類しか存在しない。

問題5: 人と野生動物の関係について、正しいのはどれか。

- ① 人は自然界の一員であり、直接的に自然環境に破壊的な影響は与えていない。
- ② 野生動物から人に感染する病気があるが、人から野生動物に病気は感染しない。
- ③ 農業被害をもたらす野生動物の対策は、駆除するのが一番である。
- ④ 飼っていたアカミミガメを川に捨てると、移入種となり、生態系の破壊につながる。
- ⑤ 直接餌を与えなければ、人が野生動物に餌付けをすることがはい。

問題6: 動物が人に及ぼす影響について、正しいのはどれか。

- ① 犬を飼うことで散歩するようになり、その運動効果で血圧が下がるのは心理的効果による。
- ② 一人でウマに乗って自由に操ることができるようになり、達成感がえられるのは社会的効果による。
- ③ 猫と触れ合うことでは、生理的効果は得られない。
- ④ 犬との散歩途中に他の飼い主と出会って話をするのは、社会的相互作用の更新につながる。
- ⑤ 犬と猫とウマからしか生理的、心理的、社会的効果が得られない。

問題7: 家畜化された動物の現代での役割について、正しいのはどれか。

- ① 機会化が進んだ現在、使役動物は存在しない。
- ② 日本における補助犬は、盲導犬、介助犬、聴導犬の3種類である。
- ③ 目的を定めて実施するのは動物介在療法だけである。
- ④ 教育関係者でなくても子供を対象に実施すれば、動物介在教育になる。
- ⑤ 日本においては、動物介在介入の普及はイギリス、ドイツなどに比べ遅れている。

問題8: こどもと動物の関係について、正しいのはどれか。

- ① 動物は言葉と話さないで、子供のコミュニケーション能力の発達には役立たない。
- ② 子供の発達への効果は、動物を家でペットとして飼育しないと得られない。
- ③ 弱者へのいたわりや他者への共感、子供が動物と触れ合うことによるのみ得られる。
- ④ 動物が評価や批判をしないということは、子供に大きな影響を与える。
- ⑤ 動物は子供の発達に良い影響を与えるので、アレルギーや喘息でも動物と触れ合わせるほうがよい。

問題9: 高齢者と動物の関係について、正しいのはどれか。

- ① 老化とともに身体機能が低下するので、高齢者にペット飼育は負担となるだけである。
- ② アルツハイマー型認知症は治療困難なので、動物の効果は期待できない。
- ③ 高齢者でも動物を飼育していれば、社会的交流の遮断が起こらない。
- ④ 健康に年をとるには、猫ではなく犬を飼育すべきである。
- ⑤ 動物の世話からもたらされる「誰かに必要とされる」感覚は、特に高齢者にとって意味がある。

問題10: 犯罪者と動物の関係について、正しいのはどれか。

- ① 日本はアメリカと比べ再犯率は低いので、再犯防止の取り組みにあえて動物を取り入れる必要はない。
- ② アメリカでは、刑務所の受刑者は誰でも犬のトレーニングプログラムに参加できる。
- ③ 動物との関わりにより受刑者は、自尊心や自己肯定感を高め、相手の気持ちを思いやる心をはぐくむことができる。
- ④ 日本の刑務所で取り入れられているのは、介助犬育成プログラムである。
- ⑤ 日本でも犬やウマのトレーナーは職業として成り立つので、もっと刑務所プログラムに導入すべきである。

問題11: 身体障害者補助犬法において、補助犬とされている使役犬の組み合わせで正しいのはどれか。

- ① 盲導犬、介助犬、聴導犬
- ② 盲導犬、介助犬、災害救助犬
- ③ 盲導犬、聴導犬、補助犬
- ④ 盲導犬、聴導犬、介助犬
- ⑤ 盲導犬、聴覚補助犬、介助犬

* 出問参考図書: 動物看護コアテキスト(ファームプレス)、動物看護師統一認定試験対策過去問題集(インターズー)

高位平準動物看護概論 動物人間関係学 対面学習確認テスト

問題1: 動物人間関係学の基盤となった研究について、正しいものはどれか。

- ① フリードマンらは、犬を飼っている人だけが心疾患で退院1年後の生存率が高いことを示した。
- ② シーゲルは、ストレスレベルの違いによる高齢者の1年間の通院回数を調査したが、差はみられなかった。
- ③ サーベルの調査により、犬や猫を飼い始めるとどちらの場合も10か月にわたって軽度の健康問題に改善がみられることが示された。
- ④ **サーベルの研究が重要なのは、医学関係者の注目を集めたことにある。**
- ⑤ アンダーソンらにより、ペット飼育者は男女とも収縮期血圧、血中コレステロール・トリグリセリド値の改善がみられた。

問題2: 人と犬の関係について、正しいのはどれか。

- ① 4,800万年以上前に地球上に生息したミアキスが、森の中で進化したものがオオカミとされている。
- ② 人はオオカミを家畜化して犬を作り出したのは、食料とするためだけであった。
- ③ オオカミの家畜化は中国で行われたことがわかっている。
- ④ 犬は特にさまざまな選択交配が重ねられ、現在30犬種存在する。
- ⑤ **犬は、最も古く家畜化された動物である。**

問題3: 人と猫の関係について、正しいのはどれか。

- ① **猫の祖先は中東リビアの砂漠に棲むリビアヤマネコと考えられている。**
- ② 猫の最古の飼育例は約9,500年前の古代エジプトの遺跡から見つかった。
- ③ 望ましい特性を得るために選択交配が重ねられ、犬と同じくらいの品種が存在する。
- ④ 猫は犬に続いて古くに家畜化された。
- ⑤ 家畜化により、猫はネズミを捕るようになった。

問題4: 人とウマの関係について、正しいのはどれか。

- ① ウマの祖先は約5,200万年前に北アメリカ大陸で生息していたエクウスと考えられる。
- ② エクウスは前後肢とも4本の指があった。
- ③ 人は、家畜化と同時にウマに乗るようになった。
- ④ ウマの家畜化は約5,500年前のウクライナで行われた。
- ⑤ **ウマ属の動物は、シマウマとロバの仲間を合わせて6種類しか存在しない。**

問題5: 人と野生動物の関係について、正しいのはどれか。

- ① 人は自然界の一員であり、直接的に自然環境に破壊的な影響は与えていない。
- ② 野生動物から人に感染する病気があるが、人から野生動物に病気は感染しない。
- ③ 農業被害をもたらす野生動物の対策は、駆除するのが一番である。
- ④ **飼っていたアカミミガメを川に捨てると、移入種となり、生態系の破壊につながる。**
- ⑤ 直接餌を与えなければ、人が野生動物に餌付けをすることがはい。

問題6: 動物が人に及ぼす影響について、正しいのはどれか。

- ① 犬を飼うことで散歩するようになり、その運動効果で血圧が下がるのは心理的効果による。
- ② 一人でウマに乗って自由に操ることができるようになり、達成感がえられるのは社会的効果による。
- ③ 猫と触れ合うことでは、生理的効果は得られない。
- ④ **犬との散歩途中で他の飼い主と出会って話をするのは、社会的相互作用の更新につながる。**
- ⑤ 犬と猫とウマからしか生理的、心理的、社会的効果が得られない。

問題7: 家畜化された動物の現代での役割について、正しいのはどれか。⇒正答が2個あるため、点数に反映させない。

- ① 機会化が進んだ現在、使役動物は存在しない。
- ② **日本における補助犬は、盲導犬、介助犬、聴導犬の3種類である。**
- ③ 目的を定めて実施するのは動物介在療法だけである。
- ④ 教育関係者でなくても子供を対象に実施すれば、動物介在教育になる。
- ⑤ **日本においては、動物介在介入の普及はイギリス、ドイツなどに比べ遅れている。**

問題8: こどもと動物の関係について、正しいのはどれか。

- ① 動物は言葉を持たないので、子供のコミュニケーション能力の発達には役立たない。
- ② 子供の発達への効果は、動物を家でペットとして飼育しないと得られない。
- ③ 弱者へのいたわりや他者への共感、子供が動物と触れ合うことによるのみ得られる。
- ④ **動物が評価や批判をしないということは、子供に大きな影響を与える。**
- ⑤ 動物は子供の発達に良い影響を与えるので、アレルギーや喘息でも動物と触れ合わせるほうがよい。

問題9: 高齢者と動物の関係について、正しいのはどれか。

- ① 老化とともに身体機能が低下するので、高齢者にペット飼育は負担となるだけである。
- ② アルツハイマー型認知症は治療困難なので、動物の効果は期待できない。
- ③ 高齢者でも動物を飼育していれば、社会的交流の遮断が起こらない。
- ④ 健康に年をとるには、猫ではなく犬を飼育すべきである。
- ⑤ **動物の世話からもたらされる「誰かに必要とされる」感覚は、特に高齢者にとって意味がある。**

問題10: 犯罪者と動物の関係について、正しいのはどれか。

- ① 日本はアメリカと比べ再犯率は低いので、再犯防止の取り組みにあえて動物を取り入れる必要はない。
- ② アメリカでは、刑務所の受刑者は誰でも犬のトレーニングプログラムに参加できる。
- ③ **動物との関わりにより受刑者は、自尊心や自己肯定感を高め、相手の気持ちを思いやる心をはぐくむことができる。**
- ④ 日本の刑務所で取り入れられているのは、介助犬育成プログラムである。
- ⑤ 日本でも犬やウマのトレーナーは職業として成り立つので、もっと刑務所プログラムに導入すべきである。

問題11: 身体障害者補助犬法において、補助犬とされている使役犬の組み合わせで正しいのはどれか。

- ① **盲導犬、介助犬、聴導犬**
- ② 盲導犬、介助犬、災害救助犬
- ③ 盲導犬、聴導犬、補助犬
- ④ 盲導犬、聴導犬、介助犬
- ⑤ 盲導犬、聴覚補助犬、介助犬

* 出問参考図書: 動物看護コアテキスト(ファームプレス)、動物看護師統一認定試験対策過去問題集(インターズー)